

原発と原爆

—なぜ日本は原発を止められないのか？—

非核保有国であるドイツやイタリアなどの先進国は言うに及ばず東アジアでも韓国や台湾など多くの国々が脱原発へと舵を切りつつあります。にもかかわらず福島原発事故という史上最大の原発事故を引き起こした日本政府は遮二無二、原発再稼働の道を突き進もうとしています。なぜ、脱原発・再生可能エネルギーへの転換という世界的な潮流に逆行してまで日本は原発に固執し続けるのでしょうか？ 原発・原爆問題に詳しい守田敏也さんにお話しいただきます。



- 日 時：2018年1月28日（日）14：00～17：00
- 場 所：京都大学文学部 新棟2階 第7講義室
- 講 師：守田敏也さん（フリーライター）
- 資料代：500円（学生無料、その他応相談）

もりたとしや
守田敏也さん

同志社大学社会的共通資本研究センター客員フェローなどを経て現在はフリーライター。京都「被曝2世3世の会」世話人、兵庫県篠山市原子力災害対策検討委員を兼ねる。福島原発事故以降、被曝地を度々訪問。各地で放射線防護と原子力災害対策の講演を行い、篠山市では安定ヨウ素剤の事前配布を実現。ヨーロッパでも度々講演し、日本から原発輸出が計画されているトルコを4回訪問。著書に物理学者矢ヶ崎克馬氏との共著『内部被曝』（岩波ブックレット）、原子力災害対策をまとめた『原発からの命の守り方』（海象社）がある。



- 主 催：戦争をさせない左京1000人委員会
- 問い合わせ：075-711-4832 京都市左京区田中里ノ前町21 石川ビル305